第４巻の発行によせて

2020～2021年にわたり世界を襲ったパンデミックは，教育界にもこれまでにない大きな影響を与えた。学校教育，大学教育の現場は，新型コロナウイルス感染症の対応に追われ，日々格闘してきた。しかしコロナ禍がもたらしたものは，決してマイナス面ばかりではない。対面型，従来型の授業ができない状況が発生し，否が応でも学校とは何か，教育とは何かといった根源的な問いに向き合わざるを得ない状況が生じた。そうした中で「学びや研究を止めない」一念で用いたICTは，その工夫や活用により，従来の授業のスタイル，学びのスタイルを大きく変えようとしている。

一方で，初等中等教育では2020年度から新学習指導要領がスタートし，大学教育の改革，高大接続の改革とともに三位一体の教育改革は，これまでにないほど注目されている。さらにこれらの動きと呼応するように，2019年度には教職課程を有する全ての大学に再課程認定が求められ，現在各大学はそれに基づく教員養成が進行している。

予測不可能な時代，変化に耐えうる教育改革が求められる状況において，これからの教職課程には「不易」と「流行」の二つの視点からの教員養成が求められよう。すなわち，時代の動向に決して揺るがない哲学である「不易」の視点を根底に据えつつ，国際動向や社会構造の変化，通信情報技術の革新など様々な変化を見据えた「流行」の視点を持ち合わせる必要があろう。二つの視点を踏まえ，このような時代に生き抜く子どもたちの資質・能力を育成できる，教師としての真の力の育成が求められよう。東洋大学の教職課程は，根底の揺るがぬ土台となる教育哲学の獲得を目指すとともに，生涯学び続ける教師像の実現を目指す。

さて，東洋大学教職センター紀要は，東洋大学教職課程関係者が，東洋大学教職課程における取組，組織や個人で培っている学問研究，国内外の教育研究や政策などの動向を定期的に示す刊行物であり，東洋大学教職課程のいわば顔である。本学が目指す「東洋大学教職課程の理念」や「東洋大学教職課程の目標」，さらには，実効性のある具体的な取組につながる 「東洋大学教職課程の計画」（それぞれ，以下に掲載）を見据え，東洋大学教職課程の独自性と発展性を示すものである。

この度，東洋大学教職センター紀要第４巻がめでたく刊行されることを大変喜ばしく想う。また，ご投稿いただいた諸先生方には心より御礼申し上げる。

東洋大学教職センター紀要が東洋大学教職課程の文化の礎となることを願い，多面的な視点から大いに論じていただくことを期待している。

東洋大学教職センター紀要が，東洋大学教職課程，東洋大学教職センターの発展，さらには東洋大学の一層の発展と充実に寄与し得るものになることを願ってやまない。

東洋大学　教職センター長　　後　藤　顕　一